



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.3.31 No. 4762

ベ・アなんと600円、率で0・91% 貨物の超低額・格差回答弾効!

貨物会社は、三月二十七日九八年の賃上げ回答を行なったが、下記の表のとおり会社発足以来最低の回答となった。しかもJR他社と比較してもその格差はますます拡がっている。貨物会社は、九四年十一月から「フレイト21」計画を、また昨年四月から「新フレイト21」計画をもつて、貨物「六千人体制」にむかって高齢者に対する退職奨励と大合理化・外注化を猛烈な勢いで進めている。それとともに、毎年の賃上げ交渉において、最低水準の賃上げをつづけてきた。そして今回のベ・アは、額で六百元、率で〇・一九%という史上最低の内容となった。貨物会社は、この五年余「赤字」を理由に、賃上げと夏期・年末手当をJR他社に比べ低額に押さえこんできた。貨物の労働者の働きが悪くて「赤字」になっているわけではなく、分割・民営化強行による構造的な問題によって今日の貨物の「赤字」体質があるにもかかわらず、賃金や労働条件が切り縮められてきている現状に貨物の労働者は心底怒っている。

七二名が第二波ストに突入
千葉機関区で二三〇名が
結集し抗議の集会ひらく

動労千葉は、この貨物会社の賃金回答日に照準をあわせ、九八年春闘第二波ストライキを設定し、三月二十七日七二名がストライキにたった。そして千葉機関

区において「九八年春闘勝利、貨物格差粉砕、第二波スト貫徹、動労千葉総決起集会」を全支部から二三〇名の結集のもとに勝ち取った。これは、貨物における超低額回答にたいする唯一の抗議の闘いとなった。日貨労は、書記長緒方の発言にみられるように、賃金交渉そつちのけで国労攻撃に終始するありさまだ。こうしたなか動労千葉のストライキこそが貨物の労働者の怒りと深くむすびついた闘いとして闘われた。この第二波ストの結果のうえに、貨物における「新フレイト21・貨物六千人体制」との闘いをさらにおしすすめていこう。

新賃金の再回答を申し入れ
新フレイト21・
六千人体制を許すな

動労総連合は三月三十日、「二十七日の会社回答に強く抗議し、再考と再回答を求める」申し入れを発した。こうした労働者に犠牲を一方的に押しつける貨物会社を許してはならない。貨物会社は、九八年度事業計画で、この秋のダイ改で大規模な基地統廃合をふくむ大合理化を明らかにしている。そしてそのカギに動乗勤の再改悪をおいている。第三波ストを、強制配転者の原職復帰、清算事業団闘争勝利とともに、この貨物動乗勤再改悪阻止をにかけて闘おう。そして新フレイト21・貨物六千人体制粉砕へ、全力で闘おう。

1998年度JR各社の賃上げ

会社	社員数	平均年令	平均勤続	基準内賃金	定昇		ベ・ア		計		97年度実績		
					率	額	率	額	率	額	率	額	
本州	東日本	77,900	43.6	23.4	339,258	1.96	6,649	0.98	3,325	2.94	9,974	3.20	10,931
	東海	(35歳ポイントの数値)			291,610	1.97	5,745	0.98	2,855	2.95	8,600	3.15	9,073
	西日本	45,030	44.1	24.4	343,017	1.92	6,586	0.99	3,400	2.91	9,986	3.00	10,187
三島	北海道	10,887	44.4	24.4	318,281	1.66	5,283	0.46	1,467	2.12	6,750	2.48	7,800
	四国	3,980	42.3	22.5	313,413	1.86	5,829	0.80	2,508	2.66	8,337	2.84	8,745
	九州	12,570	43.3	23.3	324,774	1.87	6,073	0.91	2,955	2.78	9,028	2.88	9,289
貨物	10,652	44.1	24.1	316,472	1.85	5,865	0.19	600	2.04	6,465	2.18	6,915	